

文化・芸術



「はるかなる間#26西桐生駅」

1976年、ゼラチン・シルバー・プリント
42・0cm×52・7cm
(当館蔵)

石内 都 (1947年)

「はるかなる間(ま)」 「写真効果・3」に続くは、1975年から写真2度目のグループ展で真家としての活動を始めた。

めた石内都の最初期シリーズの一つ。自身の生地である桐生市内各所と、母の生地・笠懸周辺を初めて撮影したモノクロームの写真で鏡。鏡を囲むように貼り付け、置かれた過剰な情報群が、非常にコンパクトラストで捉えられ

す。これらの写真は同年9月、東京新宿の企画ギャラリー「エスパース土曜」で、友人らが開催したグループ展「写真効果・5」で20点ほどが発表されました。このグループ展は、石内にとって前年の

《名画の扉》

企画展「石内都 STEP THROUGH TIME」から

50年近くの時を経た、今この一枚を見るたびに、私たちがここに定着した時間の質感に触れることになるのでしよう。(小此木)